

# 保健医療部編

## 健やかに暮らせるまちを目指して

市の政策を連載で紹介いたします。最終回は保健医療部。市民の健康に関する業務を行う保健医療部の注目施策を紹介します。

### 注目1

#### 親と子どもの健康をサポート

##### 妊娠・出産の不安を軽減

家族にとって妊娠・出産・子育てには、さまざまな悩みがつきものです。特にコロナ禍により、里帰りや難しかったり、実家などからのサポートが受けにくくなるなど、夫婦だけで過ごさなければならぬケースが増えています。市では、妊娠中に、出産や出産後



子どもノート  
お母さん・お父さんを応援する子育ての参考書。新生児訪問など配布。

訪問の時などに配布している「子どもノート」は、月齢に合わせて読んだり、少し先の子どもの様子を調べたりできる参考書になっています。子どもは、一人一人顔も違えば個性も発達のスピードも違います。一方で、子どもの成長・発達の順序はみんな同じです。「子どもノート」はその共通する部分を3歳ごろまでまとめてあります。

##### 予防接種で感染症予防

本年度から新たに、生後6か月から12歳までのお子さんを対象に、インフルエンザ予防接種費用の一部を支援します。妊婦を対象とした接種の費用も昨年度に引き続き支援を行います。

また、定期予防接種の接種券の再発行は電話の申し込みのみでしたが、インターネット（ながの電子申請サービス）でも受け付けています。子育てを社会全体で支えられるよう施策を推進します。

### 保健医療部の仕事

#### 医療保険・各種健(検)診・予防接種など

保健医療部は、健康推進課、国保年金課の2課で構成され、市民の健康長寿の延伸を目指して健康づくりに取り組んでいます。国民健康保険や後期高齢者医療の医療保険や、母子・成人保健事業として各種健(検)診や相談、教室などを行っています。感染症対策として新型コロナウイルスなどの予防接種も担当しています。また、健康推進課には、保健師や管理栄養士、歯科衛生士、健康運動指導士などの専門職が在籍し、市民の健康に関するお手伝いをしています。



### 注目2

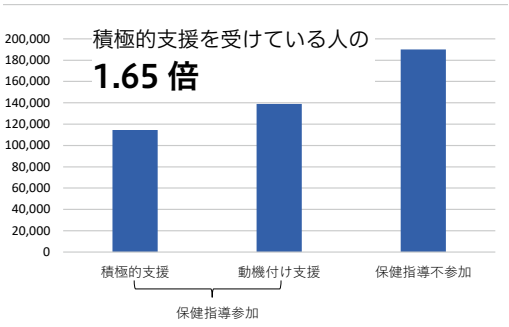
#### 早期発見で医療費を抑制 特定健診の推進を強化

##### 生活習慣病予防のために

特定健診は、糖尿病や高血圧などの生活習慣病の発症や重症化を予防するための健診で、40歳から74歳までの保険加入者は受診が義務となっています。

生活習慣病は自覚症状が少ないため、気付いたときには重症化していたというケースも珍しくありません。市では健診後、生活習慣病のリスクがあると診断された人を対象に、保健師や管理栄養士がメタボ予防などの保健指導を行っています。また、市では、若い世代から健康意識を高め、早期発見につなげるた

### 年間医療費の比較



### 一口メモ

#### 大腸がん検診も特定健診で!

本年度から35～75歳の国保加入者を対象に、特定健診(集団健診)の受診時に、大腸がん検診も一緒に受けられるようになりました。



#### お忘れなく!

#### 国民健康保険加入・脱退手続き

国民健康保険は自営業や農業を営んでいる人、会社を退職した人などが加入する健康保険です。会社へ勤め始めたりして、新しい保険に加入したとき、前の保険を脱退した時なども、自動的に切り替わりません。早めの手続きをお願いします。

### 部長ミニインタビュー

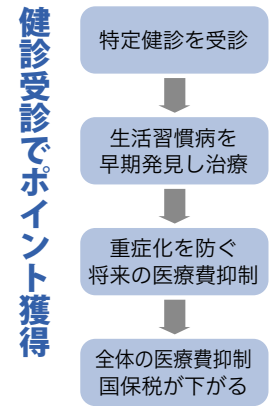


保健医療部長 吉田 美千代

#### 健康で元気な毎日を過ごすために

「いきいきと健康に暮らせるまち」を目標に、保健医療部の健康推進課、国保年金課、福祉部の高齢者介護課と3課で、市民の健康に対する取り組みを総合的に推進し、生活習慣病の発症予防と重症化予防、介護予防を図り、健康寿命の延伸や医療費・介護費などの社会保障費の安定的な運営に努めております。

また、引き続き関係機関と連携して、新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、市民の安心・安全が確保できるようにして参ります。



##### 健診受診でポイント獲得

令和2年度の市国保特定健診の受診率は40.8%で、県内市町村平均41.5%を下回っている状況です。受診率を上げるため、平日に都合がつかない人を対象にした休日(土日)健診も行っています。また、健診を受けた人は「国保健康ポイント」が貯まります。500ポイントごとに、各種検診、農産物直売所や喫茶、入浴施設で500円分の割引券として使用できる「健康ポイント割引券」がもらえます。詳しくは市HP ID59694をご覧ください。